

令和7年7月10日

鴨川市在宅医療・介護連携研修会

在宅医療・介護連携推進事業

～10年のあゆみ～



鴨川市福祉総合相談センター
平川 健司

安房地区の概況

		H12	H22	R2	R7	H12とR7 の比較	R32(2040) 【推計】	R7とR32 の比較
館山市	人口	52,777	50,583	45,887	43,244	- 9,533	35,357	-7,887
	高齢化率	24.7	30.6	39.6	40.8	+16.1%	47.7%	+7%
鴨川市	人口	39,010	36,544	32,457	29,963	-9,047	25,092	-4,871
	高齢化率	25.6	31.1	38.3	39.9	+14.3%	42.6%	+3%
南房総市	人口	48,842	43,860	37,444	33,832	-15,010	23,900	-9,932
	高齢化率	29	35.9	45.7	47.9	+18.9%	55%	7%
鋸南町	人口	10,945	9,310	7,561	6,630	- 4,315	4,163	-2,467
	高齢化率	28.9	36.7	47.5	50.4	+21.5%	56.3%	+6%
計	安房人口	151,574	140,297	123,349	113,669	-37,905	88,512	-25,157

安房地区の出生数

	H22年	R6年	H22年と R6年の比較
館山市	352人	171人	▲ 181人
鴨川市	269人	142人	▲ 127人
南房総市	187人	68人	▲ 119人
鋸南町	36人	20人	▲ 26人
計	844人	401人	▲ 443人

14年間で出生数は約半分

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

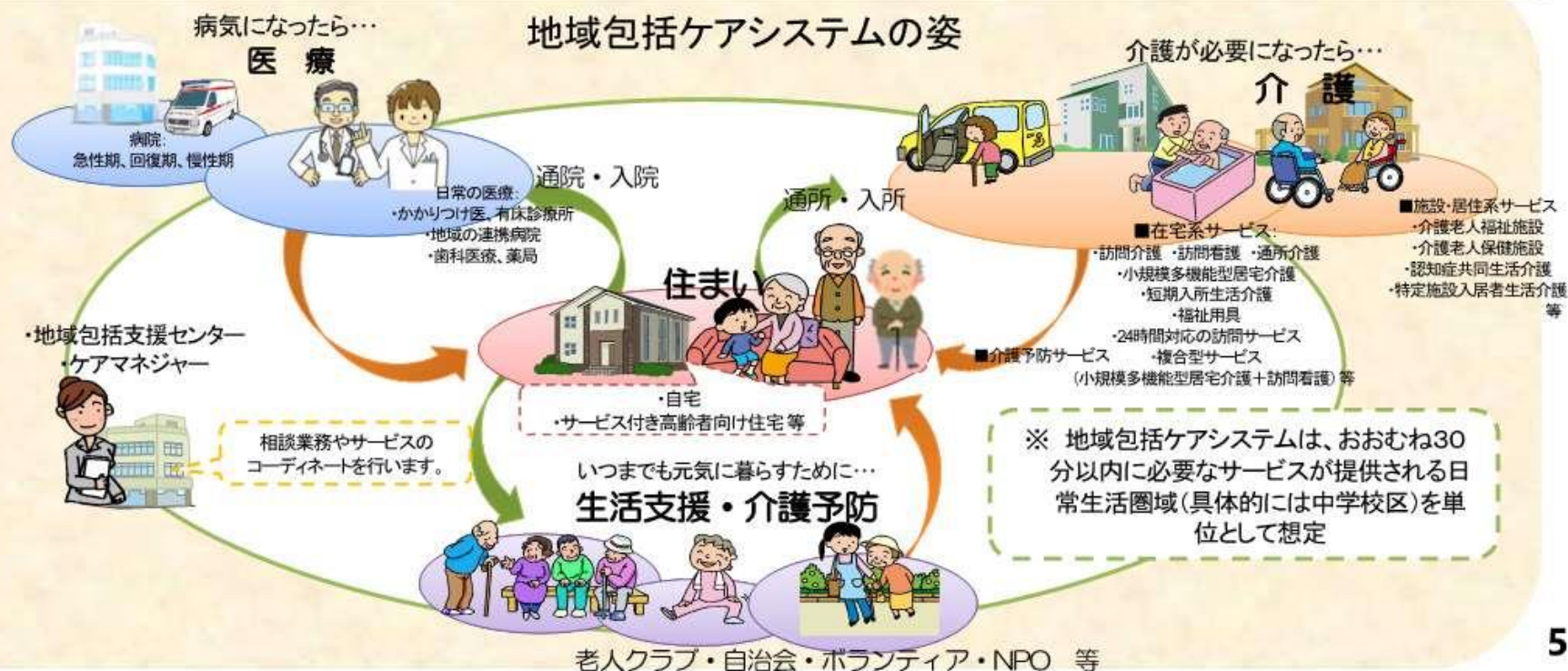
- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



在宅医療・介護連携の推進

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関（※）が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要。

（※）在宅療養を支える関係機関の例

- ・診療所・在宅療養支援診療所・歯科診療所等（定期的な訪問診療等の実施）
- ・病院・在宅療養支援病院・診療所（有床診療所）等（急変時の診療・一時的な入院の受入れの実施）
- ・訪問看護事業所、薬局（医療機関と連携し、服薬管理や点滴・褥瘡処置等の医療処置、看取りケアの実施等）
- ・介護施設・事業所（入浴、排せつ、食事等の介護、リハビリテーション、在宅復帰、在宅療養支援等の実施）

- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、都道府県・保健所の支援の下、市区町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する。

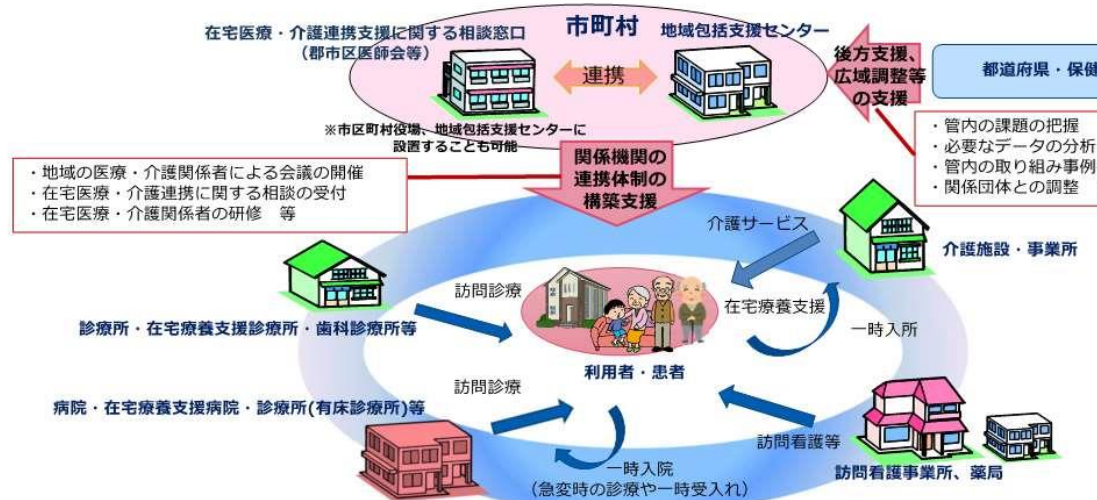
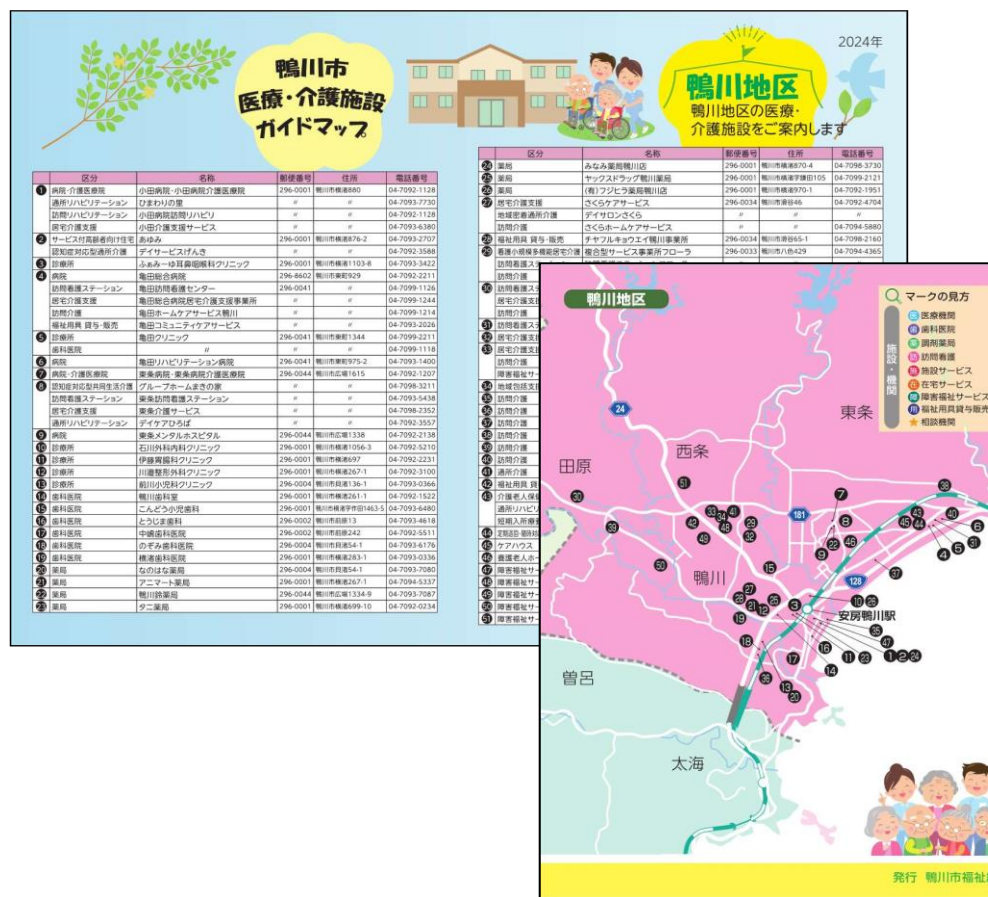


図 2 在宅医療・介護連携推進事業のイメージ



【1】地域の医療介護資源の把握

ガイドマップ・社会資源リストの作成・医療介護機関及び社会資源
リストを作成し高齢者等の生活を支援



【2】在宅医療・介護連携の課題抽出との対応策の検討

◎医療連携会議(平成27年度～)

◎在宅医療・介護連携推進会議(令和5年～)

【医師・看護師・薬剤師・介護支援専門員・社協・亀田医療大学...】

内容・課題解決に向けた研修会の企画や
課題の共有

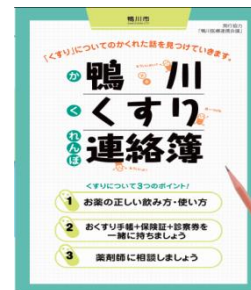


①在宅医療・介護連携研修会

⇒薬剤師や栄養士との連携をテーマとした研修会

②服薬パンフレットとDVDの作成

⇒地域住民にくすりを理解してもらうため
パンフレットとDVDを製作。



【3】切れ目のない在宅医療と介護の協力体制の構築

◎医療介護関係者の関係づくり

- ★介護支援専門員×薬剤師事例検討会
- ★ホームヘルパー×薬剤師意見交換会
- ★訪問リハビリ職意見交換会
- ★高齢者施設の看取りに関する意見交換会



【4】在宅医療・介護関係者に対する相談支援

◎福祉総合相談センターにおける相談支援

- ★地域住民及び介護専門職等から相談 R6 35件
【受診拒否、退院支援、看取り…】
- ★医療介護機関のリスト化、情報集約し関係機関に情報提供。

【5】地域住民への啓発普及

●薬剤師による 薬の啓発活動



●地域住民等 に対するACP



【6】在宅医療・介護関係者の情報共有、研修等

●在宅医療・介護連携研修会/他職種セミナー/シンポジウム…

令和6年在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療・介護他職種連携研修会

他職種連携により支援が充実した事例報告と、他職種連携のための事例検討会を開催します！

日時 令和6年7月10日(水) 18:00~19:30
開場:17:30~

場所 ふれあいセンター 2階 コミュニティホール

対象者 鶴川市内 医療介護機関に勤務されている専門職

事例報告
18:00~18:45

- ◇訪問薬剤師… ヤックスドラッグ鶴川薬局
- ◇訪問看護士… 鶴川市国民健康保険ステーション…
- ◇訪問理学療法士… 小田病院訪問リハビリ
- ◇介護支援専門員… ふれあい介護支援サービス
- ◇ホームヘルパー… 鶴川市福祉総合相談センター・長狭
- ◇介護支援専門員… 鶴川市福祉総合相談センター・長狭

他職種事例検討
18:45~19:30

他職種の役割や連携を考えるための事例検討会を行います。

申込方法 QRコードで申込 [7/30] (定員 100名)

■お問合せ/在宅医療・介護連携推進会議 事務局
鶴川市福祉総合相談センター・長狭 TEL:04-7096-5711

医療・介護・保健・福祉・司法・教育等専門職地域連携
第5回安房地域包括ケア推進セミナー

午後3時~12時15分(土曜日)
南郷文化ホール (小ホール)

※開会セレモニー 9:30~

グループワーク
9:45~12:30
定員 100名 無料 要申込

住民と行政との協働による
福祉でまちづくりにおける
専門多職種の役割

15:20~16:30
PART #3 総括講演

13:30~15:10
PART #2 パネルディスカッション

地域における医療、介護、福祉等に係る意思決定が困難な人への支援

お申込み・お問合せ 安房地域包括ケア推進会議事務局
TEL: 0470-29-5398
※申し込み期限は令和6年7月20日(金)まで

～アフターコロナ時代の新たな展望～

地域医療から地域福祉を考えるシンポジウム

アフターコロナ時代の新たな展望として、人口減少、少子高齢化の進展が著しい地域における包括的支援体制構築がこれまで以上に求められています。このシンポジウムではこうした体制構築に向けた地域医療のあり方とともに地域医療から地域福祉について考えるセッションを開催します。

基調講演 13時15分~14時15分(60分)

『地域で命を支える』
諏訪中央病院 名誉院長
鎌田 實氏
(地域包括ケア研究所 所長)

パネルディスカッション 14時30分~16時00分(90分)

コーディネーター
公益財団法人 テクノイデコ協会 理事長
大橋 謙策氏

パネリスト
鶴川市長 長谷川孝夫
南郷町市長 富山昌徳氏
鶴川市立国民病院 院長 鈴木孝徳氏
鶴川市立国民病院 医療事務 小嶋孝子氏
諏訪中央病院 名誉院長 鎌田 實氏
千葉県民生委員児童委員協議会 会長 長根 博樹氏

総括講演 16時15分~17時15分(60分)

『地域包括ケアシステムの構築と
コミュニティソーシャルワーク』
公益財団法人
テクノイデコ協会 理事長 大橋 謙策氏
(特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 所長)

会場: 長狭学園体育館 (鶴川市宮山176)
※鶴川市立国民病院及び長狭学園周辺の駐車場をご利用ください。

定員: 250名 (参加費無料・事前申込制)
申込締切: 9月30日 ※定員になり次第締切します。

お問い合せ 鶴川市福祉総合相談センター・長狭 TEL: 04-7096-5711

主催: 一般財団法人 自治総合センター、鶴川市

※後援の部にはマスクの着用と健康状態を確認した上でご来場ください。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により入場制限や開催方法が変更になる場合があります。

10年間の取組を振り返って

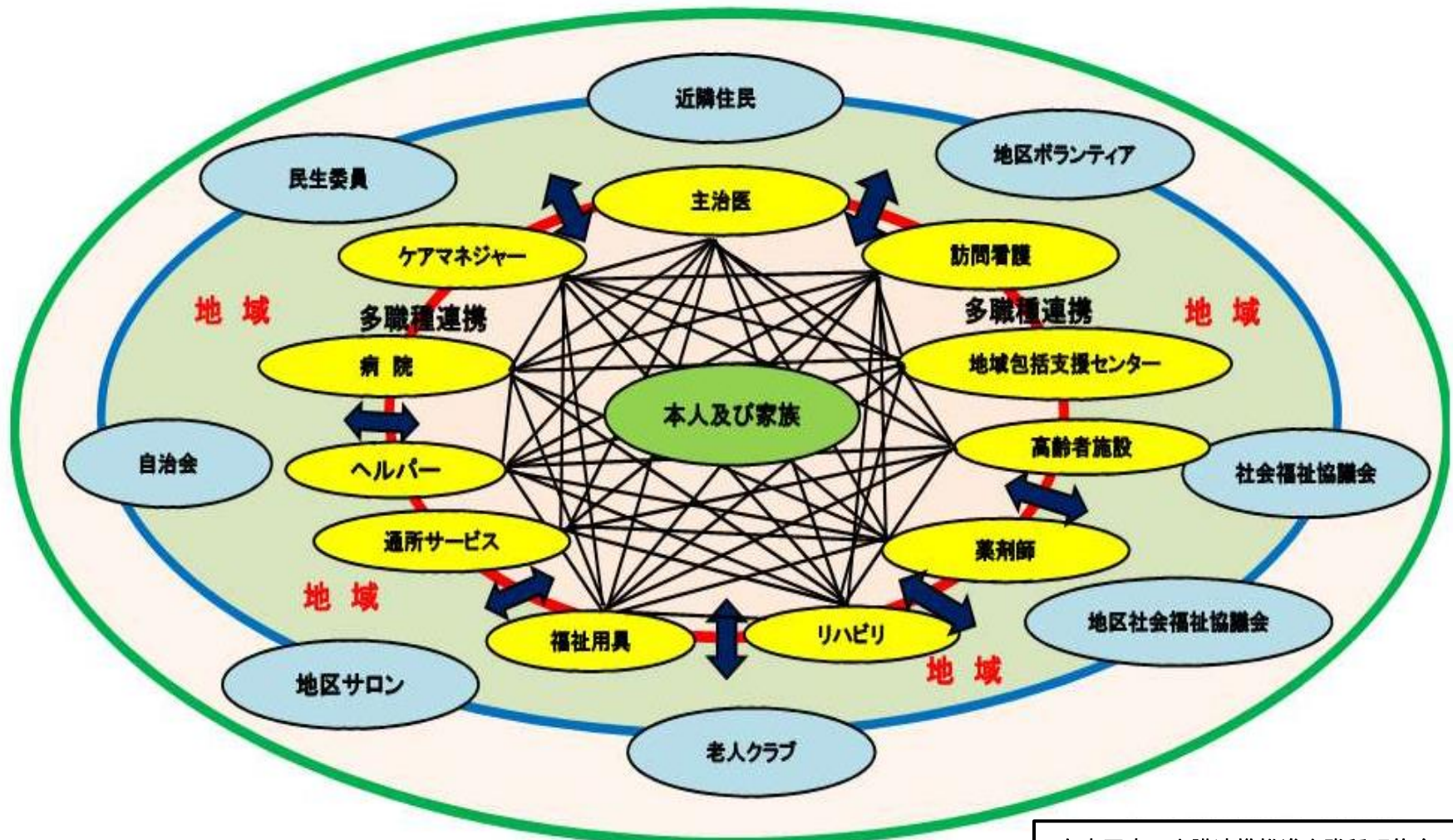
取組みしたこと	効 果
①医療、介護専門職の関係づくり	⇒専門職のスキルアップ・個別支援の充実
②地域住民との関係づくり	⇒地域住民の意識高揚、医療や介護専門職の理解
③広域的な連携体制づくり	⇒地域を超えた医療や介護専門職の連携



* 2040年問題を見据えた医療、介護専門職の連携づくり！

- 少子高齢化社会が著しい地域の連携体制づくり
安房地域の人口減に即した連携体制づくり
- 医療介護ニーズの増加する中での連携体制づくり
医療介護サービス利用者の増加、介護人材不足…
- 連携体制づくりの在り方
世代交代、ICTの活用

地域包括ケアシステムイメージ図



在宅医療・介護連携推進多職種研修会